

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500058		
法人名	社会福祉法人 値賀の里		
事業所名	ブルーホーム 暖家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷2698-1		
自己評価作成日	令和7年9月12日	外部評価結果確定日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールは天井が高く開放的な造りになっている。玄関を出ると目の前には青い海が広がり、佐世保や福岡を結ぶフェリーが港を出入りする様子も見られる。遠くには五島列島の島々を望め、美しい朝日を拝むことも出来る。
基本理念である「笑顔のたえない楽しく暖かい家」を念頭に置き、その実現に向けて職員は協力し努力している。
地域柄、ご利用者様、ご家族、地域の方、職員が知り合いや顔馴染みであることも多く、親しみやすい雰囲気となっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jgyvsvoCd=4291500058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年10月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の診療所と密接な協力関係が築けており、夜間においても診療所に相談して指示を仰いだり、入院の受け入れ対応もしてもらっている。毎月、利用者の写真や近況報告、預かり金の残高等を記載した暖家だよりを家族に郵送することで、遠方の家族でも利用者がどのように生活しているか詳細に把握することができるように努めている。同法人の特別養護老人ホームと連携しており、コロナウィルスの流行により書面開催であった運営推進会議も、特別養護老人ホームの会議室を借りて開催することで、利用者への感染リスクに配慮しながら再開することができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時、職員で話し合い作成した理念を掲示し共有、確認できるようにしている。地域の方々との触れ合いは、感染症対策が継続中で出来ていない。職員は笑顔で接し、明るい雰囲気でご利用者様が過ごせるよう努めている。	事業所内の職員が確認できる場所に理念の掲示を行っている他、パンフレットにも理念を掲載することで家族とも理念を共有することに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会制限、外出自粛が続いており直接の触れ合いはないものの、近所の方から花や野菜を頂いたり、繋がりは途切れることなく続いている。	感染症の流行により利用者の地域行事への参加を自粛していたが、令和7年10月から地域で催されるお祭りへの参加再開を予定している。また町内で行われる運動会等の催し物には職員が参加協力することで地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面開催のみで、話し合いは出来ていなかった。施設内に入ることはまだ制限しているため、今年度から養寿園の会議室を利用し、対面での報告や話し合いを行っている。	同法人の特別養護老人ホームの会議室を利用することで対面での運営推進会議を再開できており、福祉事務所、民生委員、地域住民、ボランティア団体、家族が参加し、さらなるサービス向上と地域交流のために意見の聞き取りを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情や取り組みは運営推進会議での報告が主となっているが、行政担当者との連携は取れており相談や問い合わせにもすぐに対応して頂いている。	小値賀町の高齢者に関する話し合いを行う地域ケア会議には要請があれば必ず参加している。また行政の担当者には制度等でわからないことがあった時に問い合わせを確認するなど、密接な協力関係を構築できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4か月に1度『身体拘束・虐待防止委員会』を開催し、事例をもとに話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	4ヶ月に1度の身体拘束・虐待防止委員会の他、利用者へのサービス提供等を話し合う毎月の処遇会議ではスピーチロックについても職員間での共有を行っている。またセンサーマットの設置が必要になった際には、家族へ口頭にて相談や報告を行っている。	センサーマットの設置時、家族から必ず了承を得ているが、記録に残していなかった。いつから設置しているのか、どんな理由で設置したのか、サービス提供の見直し等で確認ができるため、了承を得たことを記録に残すことが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会において、どのような行為が虐待になるか確認し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書等を用いて説明し、納得・理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は書面開催となっており、話し合いの機会は少ないままとっている。毎月、ご利用者様のご家族それぞれにお送りしている「暖家だより」のお知らせや、ケアプラン更新時に意見や要望を出していただくよう働きかけている。	特別養護老人ホームと合同で開催すること等、感染症対策を講じながら、対面での家族会の再開を検討中である。ケアプランの更新時、ケアプランと一緒に家族の要望を確認する意見書を同封して郵送し、定期的に聞き取りを行っている。家族から利用者に家事の手伝いをさせてほしいとの要望を受けた際は、タオルたたみや洗面台の清掃を利用者に協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議、処遇会議を開催しており、その時に出了意見を理事長に報告している。	翌月の行事等について話し合う職員会議、利用者へのサービス提供について話し合う処遇会議を毎月開催し、会議で挙げた要望を管理者が理事長に報告することで、職員の意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に必要な費用の負担、有する資格に応じた手当を支給している。人員不足による職員の負担を軽減するよう対策を検討中。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町外の研修会参加は難しい状況が続いている。オンラインや町内での研修には出来る限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策が継続中であるため、交流は自粛している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で接し、困ったことや不安に思うことを職員に伝えやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に感じていること、要望等は契約や面談の際に聞くようにしている。職員がご家族と顔見知りの場合、ご利用者様の担当にし、気軽に意見や要望が言えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスを必要としているのか話を聞き、暖家で出来ること、出来ないことがあることを説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したりたたんだり、洗面台の掃除や自室のモップ掛け等の家事を出来る範囲で手伝って頂いており、助かっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や自宅への外出、外泊に制限がある。日常の様子は暖家だよりで写真などで伝えたり、テレビ電話で会話したりかわりを持っていて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで自宅周辺を回ったり、受診時に知人とあいさつする等、感染症対策が継続中ではあるが出来る範囲でかわりを持っていく。	週に1回程度ドライブに出かけ、自宅周辺や馴染みの場所を回ることも多い。島内の医療機関が1カ所であるため、受診時に馴染みの方と顔を合わせることも多く、交流の機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事やレクリエーションを行い交流を図っている。食後の下膳を手伝ったり支えあう姿も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ地域の住民として関係は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様同士の会話や職員との会話から希望や思いを把握したり、行動や表情から汲み取るよう努めている。検討は処遇会議で話し合っている。	利用者の状況や意向については日々のコミュニケーションや毎月の会議において職員間での共有ができています。新規の入居者を受け入れる際には、地域の社会福祉協議会や事業所からも聞き取りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、社協のケアマネ、ショートステイを利用している場合は養寿園の職員から生活歴や暮らし方、サービス利用の経過を伺っている。近所の方だったり、入所前から知っている場合も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護支援経過記録や各種チェック表、申し送りノートで共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様それぞれに担当が付き、モニタリングを行っている。職員間で話し合い、プランを見直している。ご家族は会議には参加されていないが、意見を出していただくよう働きかけている。	利用者毎に担当の職員がおり、担当職員が作成したモニタリング表を基に、全職員でプランの検討を行っている。プランには必要に応じて受診時の内容を盛り込むこともある。家族からの意見要望は、今の生活レベルを維持してほしいという内容が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、各種チェック表、申し送りノート等を活用し、現状把握、共有しながら実践や介護計画の見直しに生かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍以前は要望に応じて外出、外泊の支援や冠婚葬祭の付き添い、ご家族の送迎など行っていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は踊りや演奏等のボランティアを受け入れ楽しんで頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内には医療機関が一ヶ所しかないため入所後も主治医が変わることなく継続して診て頂いている。基本的に職員が通院に付き添い、診察の結果は電話や暖家だよりでご家族に報告している。	職員が事業所から車で数分の診療所に利用者を定期受診に連れて行っている。診療所には入院設備もあり、急変時含め夜間の対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	暖家には看護師がいないため体調が変化した場合などには診療所に連絡し、早めに受診するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所の医師や看護師から病状や状況、退院の目途等の情報を得ている。退院後の注意点などの指示も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に暖家では医療行為等出来ないことがあるため、医療行為が必要となった場合や重度化した場合は入院や養寿園へ入所する可能性があることを説明している。	看取りに関しては積極的には行っていない。事業所に看護師が在籍していないため医療行為が行えないため、利用者の状態が悪化した時には特別養護老人ホームへの入居や医療機関への入院の調整を家族とコミュニケーションを取りながら実施している。入院後、グループホームに戻ってくるというケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2022年から消防署主催で普通救命講習が実施されており、全員が受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間想定避難訓練をご利用者様と一緒に実施している。地域の方や養寿園との合同訓練は感染症対策が継続中のため行っていないが、協力体制は築いている。毎日々火気関係のチェック、戸締りの確認を行っている。災害については台風を想定した机上訓練を行った。	夜間想定消防訓練を年2回実施している。コロナ前は地域の方や特別養護老人ホームからの参加もあったが、現在は施設単独で行っている。自然災害に対する訓練を今年の3月に初めて実施した。台風を想定した訓練で、机上訓練から取り組み始めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強い口調や大きな声での言葉かけをしないよう注意を促している。居室に入室する際や入浴時、トイレ誘導時にはプライバシーや羞恥心に配慮している。	4か月に1回、虐待防止の研修を行っている。事業所では特に、職員のスピーチロックに関する部分で定期的に意識づけを持ってもらうようにしている。利用者の居室のドアは基本的には閉めるようにしており、本人や家族からの要望があった場合には夜間は開放等の対応を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすいような声掛けや、待つ姿勢で自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間ごとに声掛けしているが、ホールで活動したり自室で休んだり、一人一人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選べる方はご本人に任せ、困難な方はその人らしい服装を職員が選んでいる。新年祝賀会や敬老祝賀会といった行事にはおしゃれをして参加できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	うにご飯やおおさの吸い物など地元で採れた旬の野菜や海産物をメニューに取り入れている。お正月やひな祭り、クリスマスなどイベントに沿ったメニューも提供している。ゴマをすったり、野菜の皮をむいたり、出来ることは手伝って頂いている。テーブルを外に出して海を見ながら食事を摂ることもある。	近所の方から野菜の差し入れがあり、誰からいただいたものだと利用者に伝えることで、食を通じて地域とのつながりを楽しむことにも繋がっている。誕生日にはホールケーキで準備しお祝いの後、切り分けて利用者みんなで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定を毎月5日に実施し食べ過ぎないように注意している。水分はこまめに勧め、水分摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状況に応じて声掛けや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。使用するパットの大きさや形状を細かく話し合い、その人に合った支援を行っている。	夜間帯にベッドサイドにポータブルトイレを設置したり、パッドやリハビリパンツを使用する等、時間帯によって工夫をし、利用者の安全と排泄の自立支援の両立を図っている。また、排泄ケアについて職員間で検討し、オムツの使用の必要がなくなった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量が1000ml以上になるよう食事以外でもこまめに勧めたり、リハビリ体操等で体を動かすようにしている。主治医と相談し、下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯、回数は決まっているが、ご本人が望まない時は時間をずらしたり、翌日に延ばしたり対応している。最初から最後まで1対1で対応し羞恥心に配慮しながらゆっくり入浴して頂いている。毎年初湯はゆずを浮かべて楽しんで頂いている。	同性による1対1の入浴の徹底がなされており、プライバシーの配慮とともに、利用者と職員の個別のコミュニケーションの場にもなっている。施設が入浴剤を準備している他、ゆず湯等の季節ごとの入浴を楽しむ工夫もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は使い慣れたものを持参して頂いている。日中でも疲労感や眠気が強い時は自室でゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を全員分まとめてファイルし、薬の種類や用法・用量がすぐに確認できるようにしている。内服薬の変更や臨時薬の処方申し送りノートで共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で掃除などの家事を行って頂いている。レクリエーションで楽しんで頂いたり、日光浴やドライブで気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策が継続中であるため、外出は自粛している。ドライブで季節の花を見に行ったり、自宅周辺を回ったりしている。	コロナ禍以降、参加を控えていた地域のお祭りにも今年から参加を予定している。また、コロナ禍以前は、利用者を外出に連れだしてくれていた、地元のボランティア団体との良好な関係も継続しており、今後面会等、施設外の方との交流に関する制限がさらに緩和された際には、ボランティアが受けられるよう交流を継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物には出掛けられておらず、お金は事務所で預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時や希望時に電話を掛けたり、テレビ電話で顔を見ながら会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひな人形やクリスマスツリーを飾ったり、季節の壁飾りを作ったりしている。玄関から外を眺められるようにベンチや椅子を置いている。天井が高く開放的な造りになっている。温度、湿度の調整に気を付けている。	施設内の季節ごとの展示物は施設側が準備するものの他に、利用者と職員がレクリエーション活動の一環として作成している。施設全体が「船」をモチーフにした形になっており、天井も高いため、開放的で明るい共用空間となっており、利用者がくつろげるようソファ等も設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルや大きな丸テーブル、ソファを配置し思い思いに過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や食器、寝具を持参して頂いている。ご家族の写真を飾ったり、御位牌を持ってこられた場合は毎朝お茶や御仏飯を上げている。ベッドの向きや位置は移動のしやすさも考慮して配置している。	本人の身体状況の変化に併せた居室の環境整備も行っている。居室内には入居時持ち込んだ家具や位牌などの他に、入居後に家族から送られてきた写真や、施設での行事の際に撮った写真なども飾っており、本人のADLの変化に沿った安全な環境の整備と居室環境に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を掛けているが、迷う方には大きな文字で張り紙し、ご自身で移動出来るよう工夫している。必要に応じてセンサーマットやポータブルトイレを設置し、転倒を予防している。		